


クッション・空気抜き・チェックバルブの形状の違い

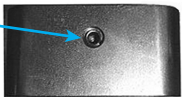
「クッション・空気抜き・チェックバルブがどれか分からない」というご質問も多数いただいております。各バルブの形状をご紹介致します。

●クッションなし

Kシリーズ


空気抜きバルブ



 空気抜きの際、ここからシリンダ内部の空気を抜く




●クッション付


空気抜きバルブ兼チェックバルブ


 空気抜きの際、ここからシリンダ内部の空気を抜く



クッションバルブ



 クッション調節の際、ここで調節をする

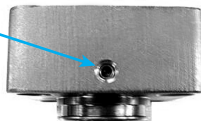


●クッションなし

F・Tシリーズ


空気抜きバルブ



 空気抜きの際、ここからシリンダ内部の空気を抜く




●クッション付

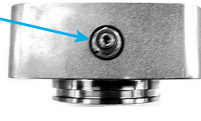
空気抜きバルブ


 空気抜きの際、ここからシリンダ内部の空気を抜く




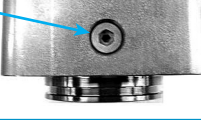
クッションバルブ


 クッション調節の際、ここで調節をする



チェックバルブ


 ここはお客様が触る必要はございません



チューブ内面加工

チューブ内面の仕上げは一般的に右記の3種類があげられます。

- ① ホーニング仕上げ
- ② バニッシングローラー仕上げ
- ③ チューブ内面硬質クロムメッキ仕上げ

弊社標準品ではシリンダ内径によって ①・② を使用しております。

φ32～φ100	② バニッシングローラー仕上げ
φ125～	① ホーニング仕上げ（バニッシングでは内径が大きすぎる為）

③ チューブ内面硬質クロムメッキ仕上げにつきましては下記使用などの目的に適應しております。

- A. JOHS規格の「製鉄機械（重機械）用油圧シリンダ」に対してはチューブ内面硬質クロムメッキ仕上げが規定されております。
- B. ピストンのシールにピストンリングを使用する場合。
- C. 単動仕様で片側がエア解放については弊社ではチューブ内面硬質クロムメッキ仕上げを推奨します。
- D. 水＋グリコール系作動油を使用する場合、お客様のご要望に応じてチューブ内面硬質クロムメッキ仕上げが施されております。

—5—